

目的 風合いに関係する一因子として、接着布の曲げ変形からの回復速度を、ライブリネスによって測定した。曲げ回復速度に影響するものとして、曲げ剛性、重量、空気の抵抗などが考えられる。そこで合わせて曲げ剛さを測定した。また反撥力について官能検査をおこなった。これらの結果から、接着布のライブリネスについて若干の知見を得た。

方法 試料：表地に綿デニム3種、芯地に不織布芯地3種を用いた。ライブリネス、曲げ剛さの実験は、たてから15° 間隔で90° までク方向の試料についておこなった。ライブリネスの実験：試験片(2^{mm}×10^{mm})を直径15^{mm}のローラの半円周に図のようにまきつけ、その先端を押え金で固定する。固定からの解放を電氣的に作動させ、試験片を原形に回復させて、その回復速度を、ストロボスコープによって撮影した。(ストロボフラッシュ、毎分3600) 回復速度の測定を、曲げからの回復角90°、135°、165°の3ヶ所でおこなった。曲げ剛さの測定：ハートループ法により剛軟度 K の値を算出した。官能検査：被服関係の専門家20人により、シェッフエの一対比較法を用いておこなった。

結果 ① 接着布の曲げ回復速度は、表地を上にして曲げた時、芯地ライブリネスの因子に影響された。これは、接着布の剛軟度の値が表より芯地側の方が大きかったことによるものと思われる。② 接着布の曲げ回復速度は、15° 方向に遅く、75° 方向に速い特性をあらわした。15° 方向にやわらかく、75° 方向にかたい特性は、剛軟度の結果とよく対応した。表地の織組織の影響と思われる。③ 接着布の官能は、表地の厚さ、重量因子に影響される傾向がみられた。